

令和6年度 学校評価表

【評価の基準】 A:達成できている B:概ね達成できている C:あまり達成できていない D:全く達成できていない

学校教育目標		総合評価																												
豊かな人間性と高い教養を持ち、他者と協働し、主体的に将来を切り拓く力と、地域・社会を牽引する資質を持った人物を育成する。		今年度より全学年が新教育課程で揃った。知識を教え込む授業から脱却し、生徒の興味・関心を引き出し、思考力・表現力等を育成するために授業改善に努めた。また、県の「未来の学校」構築事業の研究を通じて作成したシラバスや単元計画を活用し、生徒に付けさせた力から逆算した授業をデザインした。パフォーマンステストでは設定に文脈を与えてより自分事として取り組めるよう工夫をしたり、より良いルーブリック作成のために生徒の意見を取り入れたりする等、事業の最終年として総仕上げを行った。 生徒会活動やPTA活動などは例年通り実施することができた。中でも文化祭やクラスマッチ、コーラスコンクールでは生徒達の生き生きとした姿が多く見られた。地域の方々や同窓会、PTA等のご協力やご支援もあり、充実した学校生活を送れていることに感謝したい。各係が担当ごとに行った自己評価は下表の通りである。概ね年度当初の目標に到達していると考えられる。																												
重点目標(中・長期的目標)		<table border="1"> <thead> <tr> <th>成果と課題</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>改善策・向上策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国際的な教育プログラムを研究する「未来の学校」構築事業は最終年として各プロジェクトを仕上げることができた。また、今年度の実践を生徒とともに校外へ向けて発表した。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>事業の終了により来年度から予算が付かなくなるため、費用のかかっていた取り組みについて検討が必要である。</td> </tr> <tr> <td>探究学習や授業内でのパフォーマンステストによって、知識偏重とまらないバランスの取れた力を育成すべく取り組んだ。</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>生徒の主体性を引き出すような課題設定のパフォーマンステストや、テスト後の学びにつながるフィードバックを与えられるルーブリックを研究していく。</td> </tr> <tr> <td>面談旬間と保護者懇談を各2回設定し、生徒・保護者との信頼関係づくりに努めた。また、学校評価アンケートで保護者から意見をいただいた。</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>各種アンケート結果を迅速に職員で共有できるような体制を整え、学習面・生活面ともに個々のニーズにすばやく応じられるようにしたい。</td> </tr> </tbody> </table>					成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策	国際的な教育プログラムを研究する「未来の学校」構築事業は最終年として各プロジェクトを仕上げることができた。また、今年度の実践を生徒とともに校外へ向けて発表した。	○				事業の終了により来年度から予算が付かなくなるため、費用のかかっていた取り組みについて検討が必要である。	探究学習や授業内でのパフォーマンステストによって、知識偏重とまらないバランスの取れた力を育成すべく取り組んだ。		○			生徒の主体性を引き出すような課題設定のパフォーマンステストや、テスト後の学びにつながるフィードバックを与えられるルーブリックを研究していく。	面談旬間と保護者懇談を各2回設定し、生徒・保護者との信頼関係づくりに努めた。また、学校評価アンケートで保護者から意見をいただいた。		○			各種アンケート結果を迅速に職員で共有できるような体制を整え、学習面・生活面ともに個々のニーズにすばやく応じられるようにしたい。
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策																									
国際的な教育プログラムを研究する「未来の学校」構築事業は最終年として各プロジェクトを仕上げることができた。また、今年度の実践を生徒とともに校外へ向けて発表した。	○				事業の終了により来年度から予算が付かなくなるため、費用のかかっていた取り組みについて検討が必要である。																									
探究学習や授業内でのパフォーマンステストによって、知識偏重とまらないバランスの取れた力を育成すべく取り組んだ。		○			生徒の主体性を引き出すような課題設定のパフォーマンステストや、テスト後の学びにつながるフィードバックを与えられるルーブリックを研究していく。																									
面談旬間と保護者懇談を各2回設定し、生徒・保護者との信頼関係づくりに努めた。また、学校評価アンケートで保護者から意見をいただいた。		○			各種アンケート結果を迅速に職員で共有できるような体制を整え、学習面・生活面ともに個々のニーズにすばやく応じられるようにしたい。																									
今年度の重点目標		<p>国際的な教育プログラムを研究する「未来の学校」構築事業は最終年として各プロジェクトを仕上げることができた。また、今年度の実践を生徒とともに校外へ向けて発表した。</p> <p>探究学習や授業内でのパフォーマンステストによって、知識偏重とまらないバランスの取れた力を育成すべく取り組んだ。</p> <p>面談旬間と保護者懇談を各2回設定し、生徒・保護者との信頼関係づくりに努めた。また、学校評価アンケートで保護者から意見をいただいた。</p>																												

領域/対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育課程	生徒・保護者及び地域の期待・要望を勘案し、風越高校の特色を生かせる教育課程の検討を進め、提示していく。	次年度の講座・科目選択において、各学年と協力して、生徒の進路や興味・関心に応じたコース等の提示ができたか。	昨年度の反省を活かし、各学年と連携し、生徒の進路や興味・関心に応じた選択科目編成、提示ができた。ただ、一部変更したことが希望通りの科目選択にならない生徒もいた。		○			各学年と協力して計画的に進めていきたい。講座数は職員定数とも関係してくるため、来年度以降も講座編成の困難は予想されるが、生徒の進路希望が実現できるような講座編成を考えたい。
		新教育課程表について、さらに改善すべき点があれば改善し、見直しをすることができたか。	新教育課程表については、3年選択科目の見直しを行い、検討を重ね改善し一部を変更をした。		○			今年度一部変更した3年次の選択科目の編成については改善の必要が出るのが予想されるため、教育課程表の見直しも含めて検討していきたい。
	学力の向上を図るために学習習慣の確立に努める。また、総合的な探究の時間(Fの学び)の在り方について検討・実践していく。	家庭学習の充実を図ることができたか。	朝学習の実施によって毎朝学習に向かう姿勢はついたと思われる。しかし、特に1・2年生は家庭学習時間は入学時に比べ減少している。		○			受験など「必要性」がないと学習に向かいにくいと考えられる。したがって学年集会、HRや授業でその必要性を伝えていかなければならないと感じる。
		生徒の進路・ニーズに合った学習指導はできたか。	年内入試の増加に伴い2年次に小論文講座、3年次に1:1での小論文指導を行い、生徒のニーズに対応できた。また、探究活動も同様に1グループに対して1人教員が付き指導できた。		○			本校の進学状況を見ると、推薦入試で小論文や面接、探究等を用いる生徒が多い。一般入試対策と並行しながら、その部分へのアプローチもこれまで以上にしていく必要がある。
		未来の学校事業の研究とも関連させながら、より良い「Fの学び」について検討、計画をすることができたか。	特に2年生を中心に、年間を通じた計画的な探究を実施できた。また、その中で主体的に探究を進めていく生徒の姿も多くみられ、成果が得られた。		○			今年度の計画をベースにしなが、今後は1年生の探究(プレ探究)についても、計画的に実施していきよう工夫する必要がある。
	進路指導	進路希望に合わせた情報の提供と指導を行う。	生徒の意識の高揚を図りながら進路希望に沿った指導ができたか。	様々な機会を通して生徒に進路情報を提供し、意識の高揚を図ることができた。進路室を来訪する生徒には係職員が丁寧に対応し個別指導するなど、多様な進路選択に対応するため一人一人きめ細かい進路指導ができた。		○		
職員間の進路情報、指導法の共有を図る。		模試情報の迅速な共有とオンラインでの情報活用技術向上の取り組みができたか。	模試の結果を迅速に職員間で閲覧し情報の共有に努めた。3学年会では判定システム利用に関する講習会を実施して、懇談会資料として役立てた。		○			BENESSE HIGHSCHOOL ONLINE および KEI-NAVIの利用を促進し、模試や共通テストの結果などの進路情報の有効活用を図る予定である。
キャリア教育の課題を具現化した進路指導を行う。		「Fの学び」等を通して、進路意識を高揚させることができたか。	大学模擬講義(10月)、職業学習(12月)などを実施した。アンケートを見る限り、進路意識の向上に一定の効果があつたと考えられる。		○			大学等卒業後のUターン就職の参考にもなるよう、飯田市地域産業振興課と協力して多様な職業学習を実践し、キャリア教育の充実を図りたい。
生徒支援	社会規範・交通規則・校則を守る意識を高め、いじめのない自律的な学校生活が送れるよう支援・指導を行う。	いじめ案件などにすぐに対応できたか。	年2回生活アンケートを実施し、いじめの早期発見につとめることができた。事案発生時には複数の職員ですぐに対応することができた。	○				アンケートにでてこない事案の把握のため相談しやすい環境をつくる。引き続き、職員間の連携を深め、組織として対応していく。
	規範意識が高められたか。特にSNSの危険性について理解が深まったか。	規範意識が高められたか。特にSNSの危険性について理解が深まったか。	SNSの危険性については4月に外部講師による全学年対象のスマホ・インターネット安全教室を実施し、理解が深まった。		○			誤った使用方法を繰り返してしまう生徒への指導について課題が残る。アンダーマネジメント等、感情のコントロールなど支援の方法を工夫する。
	地域・家庭との連携を図り、安心・安全な環境を維持する。	地域・家庭との信頼関係を深めることができたか。	不審者情報や交通安全等の注意喚起を配信メールを活用した。家庭との連携には丁寧な対応を心がけた。		○			地域・家庭との連携は引き続き丁寧な対応を心がける。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育	教育相談	教育相談態勢の充実を図る。	職員間で共通認識を持ち、適切な支援ができたか。	毎週の係会を通して、学年会・担任会での情報共有を図ることができた。各種調査やアンケートを通して、職員間での共通認識を醸成することができてきている。		○			発達障害や合理的配慮等の、研修を実施することができた。今後も、教職員間で雑談等ができるような環境づくりの必要性を訴えかけていきたい。
			関係機関の活用、連携ができたか。	SCやSSW、役所、保健所等と連携することができた。今後も職員間の共通認識を高めつつ、各種機関との連携を増やしていきたい。		○			他校の特科とのつながりを大切にし、「下伊那地区関係 支援マップ」等や情報交換の場となる研修等に積極的に参加する。
	生徒会	自治活動としての支援を図る。	委員会、部活動、風越祭などが充実して行えたか。	風越祭や部活動において、顧問の指導のもと、計画から実行に至るまで生徒自らが達成感を得るような活動に近づけた。委員会活動は、学校生活がより充実するような観点で新たな活動を取り入れておこなうように促すことができた。			○		自治活動において、微小であっても生徒たちの目標や成果が成長に繋がるように支援をしていきたい。またいかに最小の支援で生徒の成長を促せるかを課題として関わっていくことも試みていきたい。
			協働して物事に臨む姿勢を促す。	参集型の生徒総会や集会などの運営や参加により協働して行事に臨めたか。	中学時代にコロナ禍を過ごした生徒たちも参集型の生徒総会などの運営等は、役員で協働しおこなうことが定着した。一般会員への働きかけも少しずつではあるがおこなうことができた。		○		HRで役員や代議員から対面での発信・受信も大切な機会であることを促していきたい。代議員会の機能を生かして一般生徒の意見が生かされている実感を持ってもらい関心を高めていきたい。
			地域を意識した活動により社会性を育む。	風越祭の企画やボランティア活動等において地域を意識した活動ができたか。	一般公開で多くの来場者を迎えた風越祭は、地域の方々を意識して楽しんでいただけるような企画も見られた。生徒会から全校生徒へ発信できるボランティア活動については課題が残る。		○		風越祭の一般公開は、さまざまな年代や地域の方々、保護者等にも拓かれたものとし、社会性を育む活動になるよう支援したい。生徒会が関わるボランティアについては研究していきたい。
	保健	自己の健康課題を把握し、健康の保持増進・感染症対策に主体的に取り組む力を育てる。	健康の保持増進に努める取り組みをサポートできたか。	感染症や熱中症、思春期に多い病気に関するポスターを廊下などに掲示し、注意喚起を行った。これにより、関心を高め、予防意識を促進することができた。			○		生徒が自主的に自己管理や健康増進について行動に移すことのできる呼びかけをさらに充実させる。
			夏場の熱中症の予防等、季節に合わせた体調管理ができるよう、啓発活動を行うことができたか。	授業中の水分補給を促したり、夏場の学校行事や部活動など学校生活では暑さ指数(WBGT)をみながら活動を行うことができた。また、エアコンの使用も熱中症対策につながった。			○		熱中症対策に関して、エアコン設置がされていない研究室もあり、改善が必要。寒さ対策に関しては、ストープだけでなくエアコンの併用も検討していく。
			年間を通して感染症の予防に努め、校内での感染症の蔓延を最小限にとどめる取り組みができたか。	感染症の拡大防止のため校内各所手消毒の設置など感染対策を行うことで、生徒・職員への意識づけを行うことができた。			○		学校全体として感染症の蔓延を防ぐ取り組みを考えていきたい。
	図書	図書館の利用促進をいっそう図るとともに、探究学習や進路実現のための資料の拡充を目指す。	図書館の情報発信・環境整備、資料の拡充とともに、資料閲覧、調査、貸出が円滑に行えたか。	探究学習や進路実現のための資料提供を円滑に行い、そのための資料拡充ができた。また、Google Classroomを活用して情報発信に力を入れることができた。			○		図書館の情報が全生徒に届くように発信し、さらに利用を促していく。また、探究学習に役立つリンク集の整備を進め、正確性の高いインターネット情報にアクセスしやすくする。
			タブレット端末等を利用した学びの継続や伝統文化に親しむ機会を保障する。	生徒への学びの提供が行えるよう環境を整えていくことができたか。	芸術鑑賞は「→Pia-no-jaC→」を鑑賞した。ライブ形式であり、生徒も参加するステージもあり、情操の成長につながった。すべてのHR教室で電子黒板に生徒のタブレットも接続できるように整備し、デジタル端末の利用につなげることができた。			○	
	人権平和	生徒自身が人間らしさを保ち、自立して生きていくため、基本的な人権を互いに享有し、人間の尊厳を尊重して差別・偏見・いじめを容認しない意識の向上や環境を整える。平和や真理を希求する人格を育成し、人権尊重の実践を目指す。	平和と人権学習や修学旅行体験を通じて、戦争の悲惨さと平和の尊さ、差別や不当な人権侵害の事例について学び、人権感覚を養い、磨くことができたか。	全校による人権平和学習を映画鑑賞及び感想文記入という形で実施した。今年度は、災害時の被災者の心のケアの問題をテーマに取り上げ、精神科医の安克昌氏がモデルとなった「心の傷を癒すということ」という映画を鑑賞した。どの生徒も他人事ではなく自分の問題として捉えようとしており、優れた感想文が多かった。一部を安さんの弟の成洋氏に読んでいただいた。			○		人権平和学習の日や時間が確保されているのはよいが、探究学習等と組み合わせられているので、じっくりと人権学習ができていないと感じている。できれば一日人権学習の日があればよいと思うが、難しいかもしれない。人権学習をその場限りで終わらせることのないよう多様な学習活動を通じて取り組んでいく必要があると思われる。
			人権を持つ人間としての尊厳や命の尊さについて学び、人権意識の向上を図ることができたか。	被災者の心のケアを取り上げた映画を鑑賞し、感想文や鑑賞態度から人間の尊厳や命の大切さなどを考えるよい機会になったと感じている。また、修学旅行の事前学習や現地での被爆者の方の講演も人権意識の向上に繋がったと考えている。			○		時間的な制約があるのも踏まえ、映画鑑賞や修学旅行以外にも生徒にしっかりと人権について考えてもらうきっかけや機会を作りたいと考えている。
学校運営	保護者・地域との連携	保護者や地域との連携・交流に努めるとともに、積極的に情報を発信し、より一層開かれた学校づくりを進める。	配信メールや広報誌、Webページで学校情報を積極的に発信できたか。	Webページや配信メールで生徒の様子や学校からの連絡を発信できた。広報誌Fuetsu Newsは回覧板でも地域の方々へ届けることができた。			○		来年度は今年度以上の頻度で更新・配信し、学校情報を積極的に発信していくことを目指したい。
		PTA活動や学校評議員会の意見を学校の教育活動に生かすことができたか。	PTA活動では、文化祭で出店する等、保護者を中心に職員と協力して活動することで関係をより深めることができた。学校評議員会は予定通り開催し、貴重な意見をいただいた。			○		PTA活動では事業の精選・見直しを進めて負担軽減を図りつつ、より効果的な活動となるよう検討をしている。今後も様々なかたちで学校評議員・保護者・地域の方の意見を聞くことができるように工夫をしていきたい。	